

第四期周辺整備協議会の今後の進め方

9月7日（水）の作業部会にて、第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の今後の進め方について、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

本日は、作業部会の意見交換を基に、裏面のとおりに確認事項を整理したので、内容を協議したい。

委員意見

- ・施設・周辺整備事業全体の目標と基本方針を示す。
- ・周辺整備の対象地域を示す。
- ・個別事業の基本構想を示す。
- ・概ねの事業実現期間を示す。
- ・将来を見据えた事業の基本構想とする。
- ・30年後にどうなっていてほしいかという視点で検討する。
- ・30年後を考えるためには、本協議会の構成メンバーを見直して再編成し、全市民的に再度練り直す必要がある。
- ・子どもがどう育っていくか、また住みたい、戻ってきたいという視点が必要。
- ・周辺地域との連携、他の自治体との連携を視野に入れてまとめる。
- ・地域住民の自立的課題解決は、大きな課題だ。
- ・大きい目標も重要だが、個別の課題の話をしたくと組み立てられないのではないか。
- ・地域力の向上を当面取り組んでいけば、それが低炭素社会やまちづくりの考えにつながるのではないか。
- ・北エリアの町の楽しさを演出していきたい。
- ・次の世代に脱焼却等を伝えるためにも、エコプラザは必要な施設だ。
- ・周辺整備の個別課題は、それぞれの諸課題を抱えているところが中心に取り組む。
- ・北エリアの整備は、集中的に協議会で取り組む。

確認事項

- ・ 第四期とりまとめの内容と構成（①施設・周辺整備事業全体の目標と基本方針を示す。②周辺整備の対象地域を示す。③個別事業の基本構想を示す。④概ねの事業実現期間を示す。）
- ・ 「地域力の向上」を当面取り組むことにより、「低炭素モデルの実現」「まちづくりとの連携」につなげる。

（例）・屋上菜園はクリーンむさしのを推進する会と平成29年4月より運営するSPCと市で具体的な運営について話し合いが進められており、地域の協力を得ながら、平成29年4月からスタートする。
- ・ 今年度のプラットフォームでのイベント「クリーンセンターとあそぶ」は、クリーンセンター運営協議会と市との共催として、運営協議会と市（クリーンセンター、ごみ総合対策課、環境政策課）と平成29年4月より運営するSPC、武蔵野美術大学学生も加わり、企画が話し合われている。
- ・ 周辺整備については、都市計画マスタープラン「クリーンセンターを核とする周辺まちづくり」を目標に、課題出し、提案を行い、まとめる。その上で、市関係部署とその課題、提案に関係する委員（団体）が直接話し合いを行い、今後の方向性を確認していく。
- ・ 第四期協議会では、エコセンター（仮称）、エコプラザ（仮称）、北エリアについて、具体的な提案をまとめる。